## Book Review

# Physical Examination of the Heart and Circulation (4th Edition)

Joseph K. Perloff 著

People's Medical Publishing House Shelton, 2009, 274 頁
ISBN-13：978-1-6079-5023-3

本書は初版の時から，特異な著述形式によって多くの読者を魅了してきた名著である．A5判より少し大きめ，しかもわずか274頁という小著であるが，ほかの診断学書とは明らかな一線を画し，しかも，内容が豊かで説得力に満ちているという特徴を持っている．その基本にあるものは，この書名が示すように，「診断学」そのものを対象とするのではなく，あくまでも個々の身体所見（従来の理学的所見）の記載に力点を置き，それを事細かに述べ，それが最終診断に対してどのように寄与して行くかという方向を指し示すという記載方針である．例えば頸静脈波の観察の中に心房中隔欠損における特異性は述べられるが，「心房中隔欠損の診断はかくかくしかじか」という総括的記載はどこにもない．

本書の特徴の第二は，通常の診断学書では見られない歴史的叙述とか（写真も含まれる）挿話があちこちに述べられていることであり，その点，第1章（13頁）の身体所見の歴史は本書の大きな特徴である．さらにこのような小著としては，40頁にもわたる長大な「体形の観察」は非常に充実したものであり，ここには小児心臓病学の泰斗としての先生の面目躍如たるものがある．

続く動脈波，頸静脈波と末梢静脈波，心臓の動き，聴診，胸部，腹部の観察など，知っているようで初めてお目にかかる知識も少なくない．そういう知識は今時の医師からはどうでもよい事のように思われがちだが，そういう医師にこそ，本書を手にしてみていただきたい．

本書の通読は容易である．それは難しいことがほとんど書かれていないからである．だが評者は2度にわたって完読した．それは内容のすべてを頭に刻み込みたかったからである．つまり本書はそれだけの魅力がある．

個人的に評者は米国紳士Perloff先生のファンである．それ故，第三回のLaennec Club Japan（1988年，箱根プリンスホテル）に先生をお招きして討論会を持った．ファンである第一の理由は，Perloff先生が評者の最も尊敬する心臓病学者，英国ロンドンの故Paul Wood先生（Institute of Cardiology）のお弟子さんであるということである．評者はWoodの心臓病学書（單著）と論文で育った．Perloff先生もそのことを誇りにしておられる．

Perloff先生はThe Ahmanson /UCLA Adult Congenital Heart Disease Centerを主催され，2001年9月，Founding Fatherである先生を祝う会があった．先生の精神を本書を通じて体感されることは，臨床家としてこの上ない愉悦であると評者は信じる．

（なお，本書にはビデオ，音声クリップのウェブサイトサービスが付いている）

（坂本 二哉）